

号外

令和7年度
第3号

Tobu通信

東 部 教 育 局
東教発 R7.6.27研修活動
の充実保護者・学校・先生方のもとに講師が出かけます！
～派遣事業の活用～

県教育委員会では、県内の学校、教育研究団体及び研究グループ等が行う授業や研修に各種ファシリテーターやアドバイザー、専門職員や指導主事等、様々な分野において専門的な知識や経験を持つ方を派遣し、活動を支援しています。今号外では、それらの中から一部を紹介します。

「出かけるセンター」メニュー

学校訪問型研修(ICT活用教育)

【内容】

- ・DXやICT視点の授業づくり（基礎～応用）サポート
- ・学習者主体の学びとなる授業づくり
- ・校内研修会（研究職員会）の企画・運営のサポート
- ・学校組織づくりサポート
- ・学校評価（DX・ICTの視点から）
- ・Google Workspaceの基本操作
- ・小学校におけるプログラミング教育

【派遣講師】

- ・教育センター教育DX推進課（指導主事・ICT教育指導員・教育DX推進員）



情報モラル教育

【内容】

- ・インターネット利用に関する県内児童生徒の実態及び保護者の意識と、学校・家庭・地域が連携したネット利用ルール作り等について

【派遣講師】

- ・社会教育課（指導主事）

人権教育

【内容】

- ・人権学習を進めるときの考え方や効果的な指導教材、指導方法等について

【派遣講師】

- ・人権教育課（指導主事）

不登校などの未然防止や早期支援

【内容】

- ・不登校の未然防止、早期支援のための児童生徒への関わり方や、学校の校内支援体制づくりについて

【派遣講師】

- ・生徒支援・教育相談センター（指導主事）

「ふるさとキャリア教育」に基づく
地域歴史教材を活用した授業支援プログラム

プログラム①資料紹介

- ・教材となる地域の遺跡や出土品、デジタルコンテンツなどを紹介。

プログラム②出前授業

- ・専門職員による地域の遺跡、出土品を教材とした出前授業。

プログラム③資料貸出

- ・遺跡で出土した本物の土器や石器などを貸出。

プログラム④見学・古代体験

- ・埋蔵文化財センターまたはむきばんだ史跡公園での展示解説や土器炊飯などの古代体験。

プログラム⑤1人1台端末で使える

デジタルコンテンツ

- ・授業の教材や教材研究用の資料提供。



ファシリテーター派遣

「とっとり子育て親育ちプログラム」
ファシリテーター

- ・保護者同士でテーマについて話し合いながら学びを深める研修。

【テーマ】

- ・「10秒の愛」で子どもを幸せに
- ・我が子のイライラ、どうするの？等



学校(PTA)等へのファシリテーター派遣

- ・「人権教育プログラム（社会教育編）」を活用した保護者等への研修の実施を希望する学校（PTA）等に対し、ファシリテーターを派遣。



本号で紹介した事業のほかにも多岐にわたる支援メニューを用意しております。すでに申込が終了したものもありますが一覧にまとめていますので、各学校における教育活動や研修の充実にぜひお役立てください。



QRコードを読み取り、
派遣事業一覧表をご覧ください！



https://docs.google.com/spreadsheets/d/1eVF1xc2MNhmJR4DfXIH-r07f4BV0de_OV2VvWDBQM04/edit

次のページへ続きます

ファシリテーター派遣 (人権教育課)

鳥取市立米里小学校 PTA人権教育研修会 ～「ふつう、目玉焼きには、『しょうゆ』でしよう!!」～

普段、私たちは「ふつうは〇〇だね。」というように「ふつう」という言葉を用いて様々な判断をしていることがよくあります。私たちが日頃使っている「ふつう」について、人によってとらえ方が違う場合があることを考えました。

①アイスブレイク



話しやすい雰囲気づくり

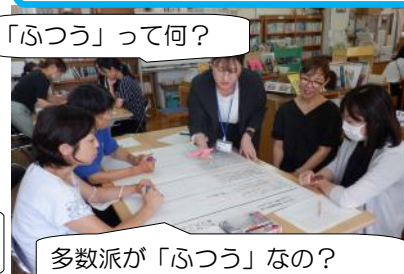
自己紹介
・名前
・おすすめ
の一品

②朗読劇「目玉焼き」



「目玉焼き」にかけるものは？
「ふつう、しょうゆ。」 「ふつう、塩。」

③事例への意見交換



「ふつう」って何？

多数派が「ふつう」なの？

④ギャラリーウォーク



共感した意見にはシールを貼る

⑤ファシリテーターより



⑥保護者の「ふり返し」

- ・「ふつう」って自分が無意識に決めつけることなのだ改めて考えさせられました。
- ・「ふつう」という言葉の使い方や使う場面によっては、人を傷つけてしまうこと、自分の思いが伝わらないことを改めて感じました。
- ・「ふつう」という言葉を何気なく使っているが、時代や個人で考え方は違うと感じました。

「とっとり子育て親育ちプログラム」 ファシリテーター(社会教育課)

鳥取福祉会 まつほこども園 保護者研修会(3歳児) ～「10秒の愛」で子どもを幸せに～

同じ年代の子どもを育てていても、日頃保護者同士で話す機会は少ないものです。あたたかい雰囲気の中で子育ての不安や悩みを話すことで、それらを共有したり、解決策を出し合ったりする場面がたくさん見られました。

①アイスブレイク



最近ラッキーだなと思ったことを伝え合う

「よかったね」と言いながら聞いてもらおうと、うれしい!子どもも同じで、受け止めてもらえると安心する。

②ワーク1



「今、忙しいの!」
「あとでね!」
「早くしなさい!」
ついつい言ってしまう場面は?

共感してもらいながら自然と笑顔

③ワーク2



10秒でできそうなことについて伝え合う

【子どもに対して】
だっこ、ほめる、
「大好き」と伝える
等

【自分に対して】
甘いものを食べる、深呼吸をする、寝転がる 等

<保護者のふり返し>

- ・10秒で子どもに幸せを与えられたり、10秒で自分の気持ちに余裕ができた、短いようで長い10秒が今の私には大切なことだと思いました。
- ・自分の時間を作ったり、子どもとの接し方を工夫したりして、子どもたちと1日でも多く一緒に楽しく過ごせる日を作れたらいいなと思いました。今の時間を大切に過ごしたいと思います。

専門的な知識や経験を持つファシリテーターの進行や助言によって、参加された保護者の皆さんが主体的に自分の考えや思いを伝え、新たな気づきや共感を得ることができました。何より温かく丁寧に関わってくださったファシリテーターの存在が、保護者の方々の安心感を生み出していました。これらの派遣事業を、さまざまな研修会等に、ぜひお役立てください。